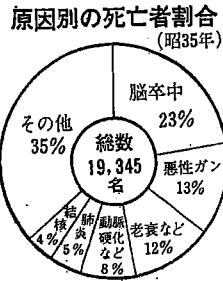


103. 原因別死亡者数 (1)

昭和9~11年の平均死亡率(人口千人につき)は18~19人であったが戦後はいちぢるしく低下し、28年以降は死亡率も10人以下となり、35年では8.1人、戦前の半数以下で日本人の平均寿命も男65歳、女70歳とのびた。これらの原因は医学の進歩によるところが大きい。一方死因別死亡状況をみると脳卒中が特に多く全死亡者の23%に当る、つぎにガン類13%で両者が高い。また結核による死亡率は非常に低くなり今日では死亡順位は第6位にある。



死 因 別	昭和33年	昭和34年	昭和35年
総 数	18 901	18 529	19 345
呼吸器系の結核	747	682	702
その他	65	73	43
梅毒	63	60	51
赤痢	3	1	—
紅熱	113	83	58
細菌性口炎	—	—	1
ア	19	24	20
咳	12	4	1
感染	3	4	3
炎症	4	5	2
急疹	9	32	18
皮膚病	—	—	—
伝染性	185	124	137
新生児	2 229	2 423	2 461
先天性	116	114	135
糖尿病	65	79	76
貧血	45	32	31
中枢神経系の血管の損傷	4 165	4 099	4 369
髄膜炎	34	34	33
髄膜炎	31	25	26
慢性心臓病	178	126	114
動脈硬化	1 225	1 328	1 527
高血圧	441	412	485
その他	148	147	261
高血圧性疾患	215	220	229

厚生省統計調査部調「毎月人口動態概数」

103. 原因別死亡者数 (2)

死 因 別	昭和33年	昭和34年	昭和35年
肺炎	66	45	67
胃腸炎	834	774	866
十二指腸潰瘍	224	183	226
胃癌	350	371	349
虫垂炎	38	32	27
腸閉塞	110	101	121
十二指腸炎	515	494	455
腸炎	140	165	161
腎臓病	481	421	367
前立腺	17	7	8
妊娠、分娩	77	52	64
先産	116	96	95
出生時の損傷	61	50	50
新生児	166	158	135
その他	665	606	566
精神病	2 306	2 236	2 325
診断の不適合	1 423	1 379	1 437
自殺	170	223	291
他殺	546	520	518
自殺	438	428	399
他殺	43	55	33

厚生省統計調査部調

104. 理・美容所、旅館、公衆浴場等施設数

各年12月31日現在

年	理容所	美容所	普通旅館	公衆浴場	温泉利用	興行場	クリーニング所
昭和30年	2 250	849	967	299	10	120	378
31	2 226	953	992	308	12	125	473
32	2 383	1 044	1 042	324	16	121	515
33	2 454	1 198	1 096	337	12	137	612
34	2 587	1 301	1 244	353	29	132	795
35	2 663	1 369	1 312	350	32	158	812

業務課調 (注) 30~33年は3月31日現在の数である。